

県民意識調査 結果概要

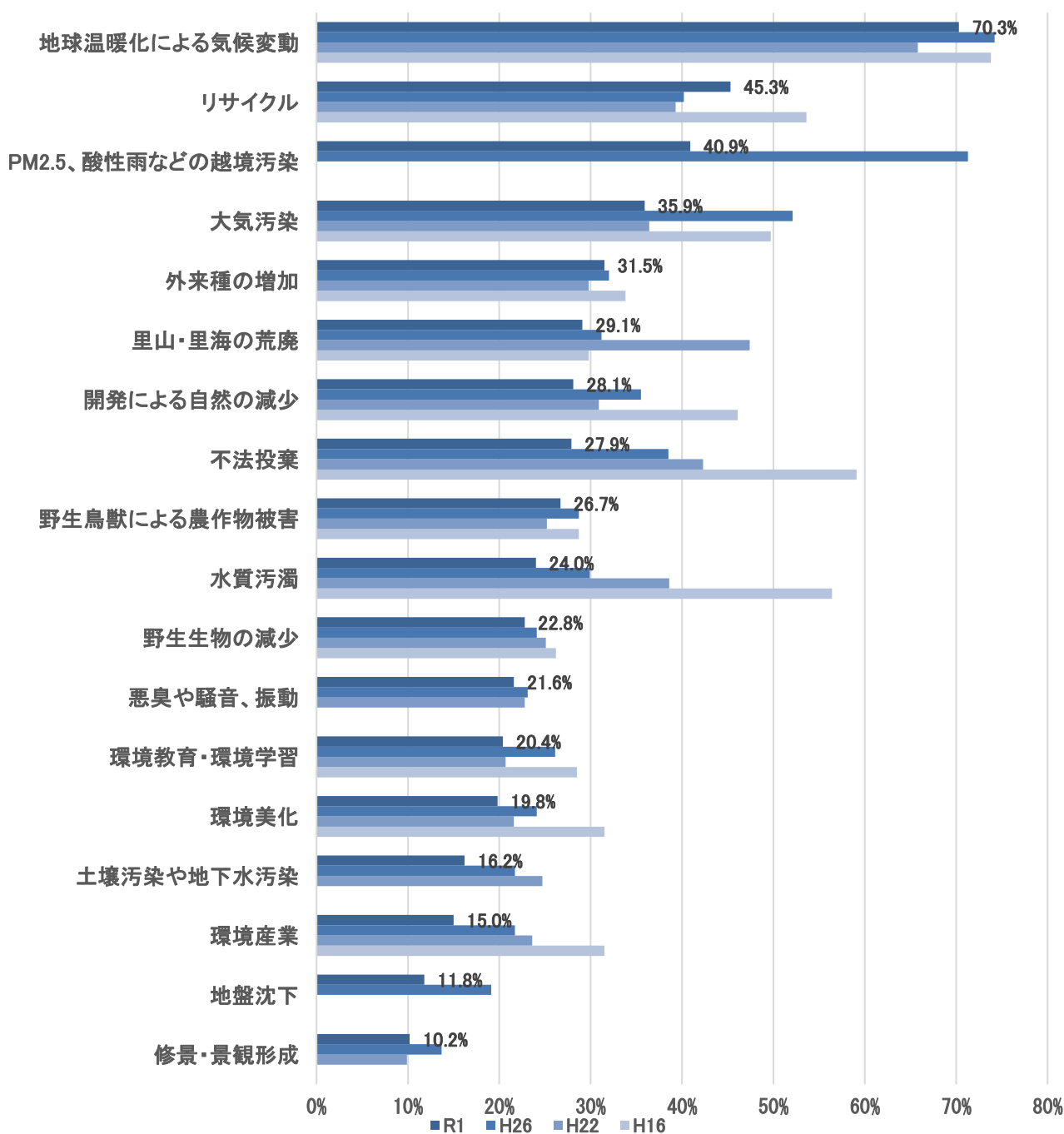
【調査内容】

- (1) 調査時期：令和元年7月31日～8月13日
- (2) 対象者数：590人（県政モニター、県政インターネットモニター）
- (3) 回答者数：499人（84.6%）

【結果概要】

（1）関心のある環境課題について

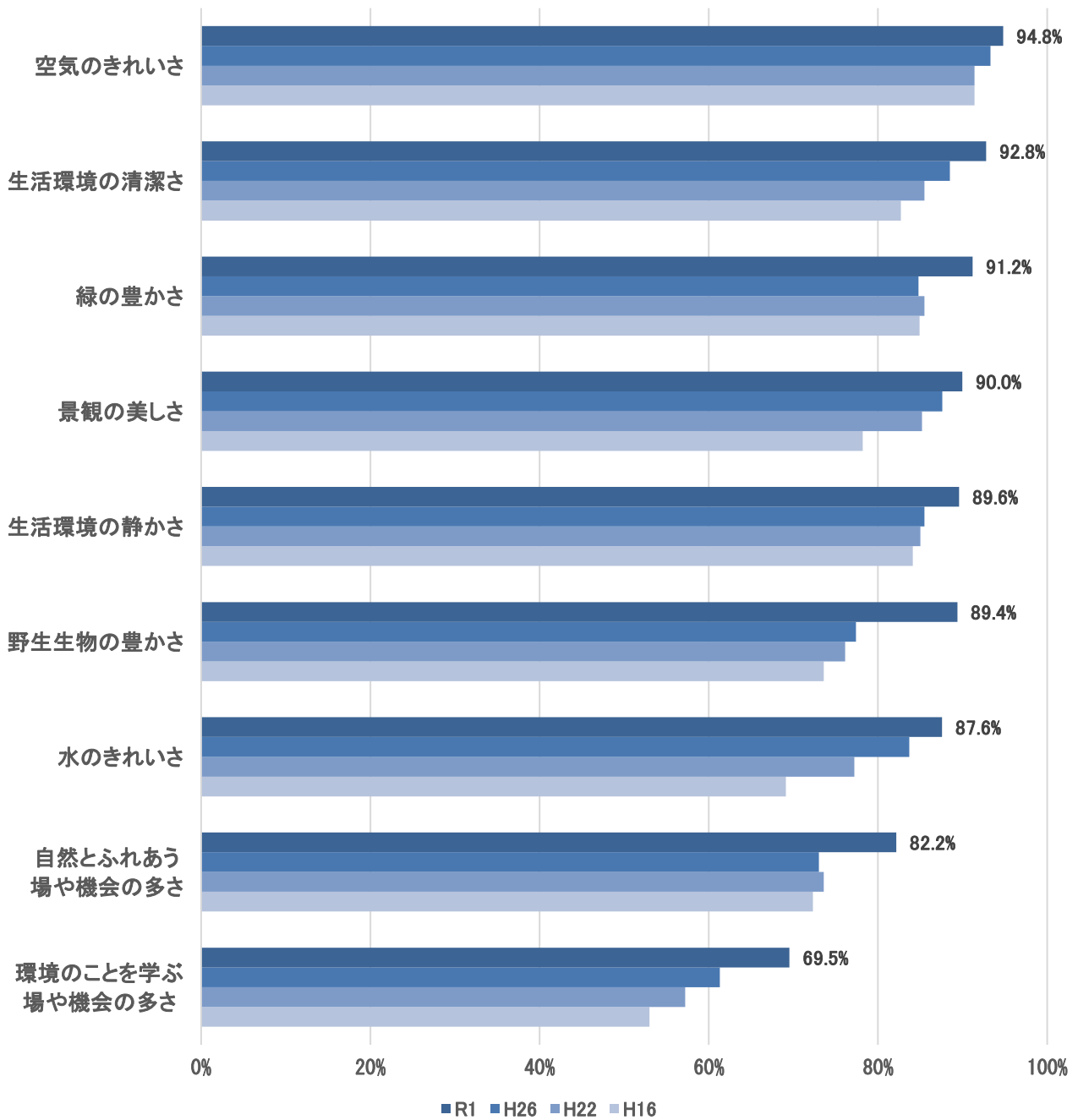
○「地球温暖化による気候変動」に対する関心が最も高く、次いで「リサイクル」が高い。



(2) 環境に関する満足度について

○ 満足度は全体として調査回を追うごとに向上。

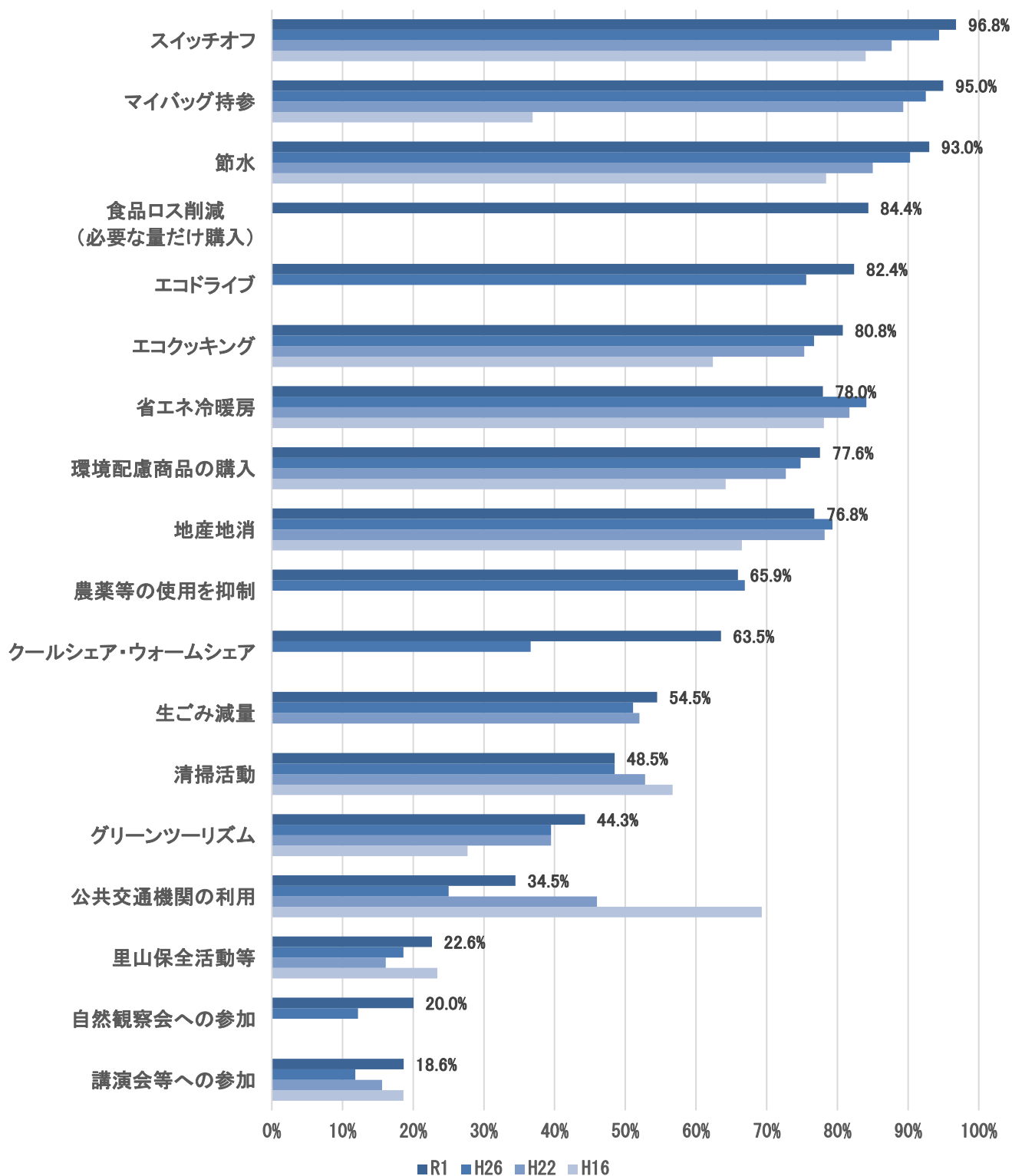
⇒ 現行計画に基づく取組の推進により、本県が誇る恵み豊かな環境の維持向上が図られている。



(3) 日常生活で実行している行動について

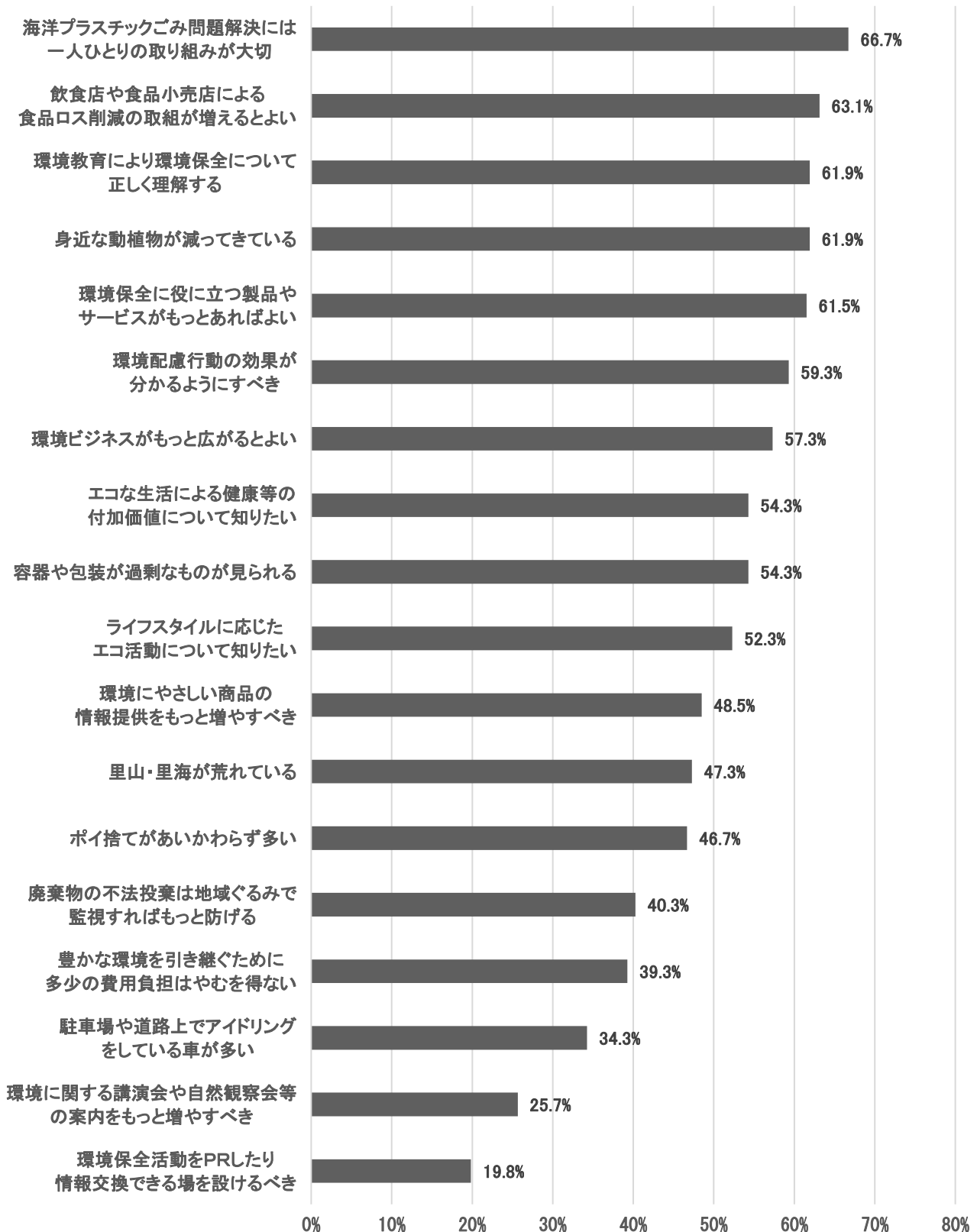
○ 「小まめにスイッチを消す」、「マイバッグ持参」、「節水」をはじめ、日常生活に身近な行動の実行度が着実に向上。

⇒ 「いしかわ家庭版環境ISO」等による省エネ・節電活動の呼びかけにより、取組が浸透。改定計画においても、「いしかわ家庭版環境ISO」のさらなる裾野拡大を図る。



(4) 日常生活の中で感じていることについて

- 近年注目されている海洋プラスチック問題や食品ロスを意識している人が多い。
- ⇒ プラスチックごみ対策や食品ロス削減対策の充実・強化を通じ、家庭や事業活動における3Rを推進する。

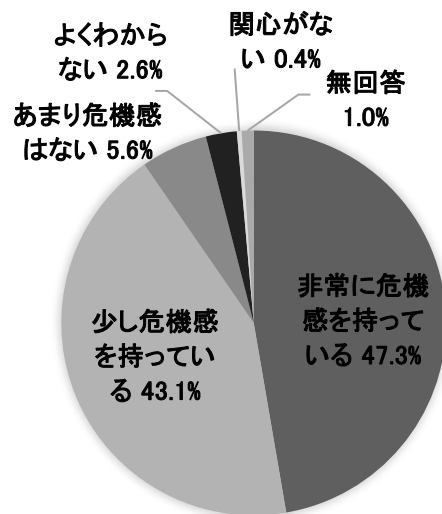


(5) 地球温暖化対策について

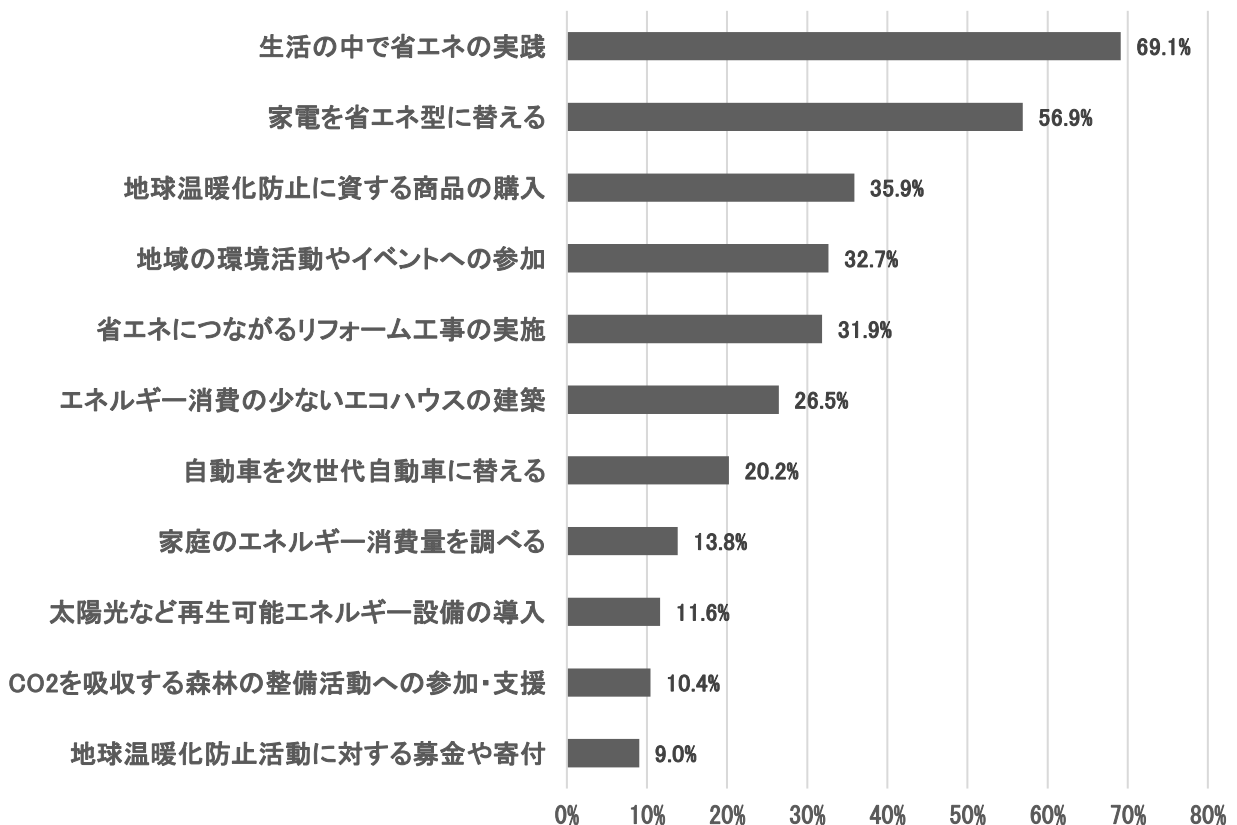
○ 約9割が地球温暖化の進行に危機感を持つ一方で、日常生活の中で地球温暖化対策に取り組んでいる割合は約7割。

⇒ 「いしかわ家庭版環境ISO」のさらなる裾野拡大により、日常生活の中で気軽に行える地球温暖化対策の普及を図る。

【地球温暖化の進行に対して感じること】



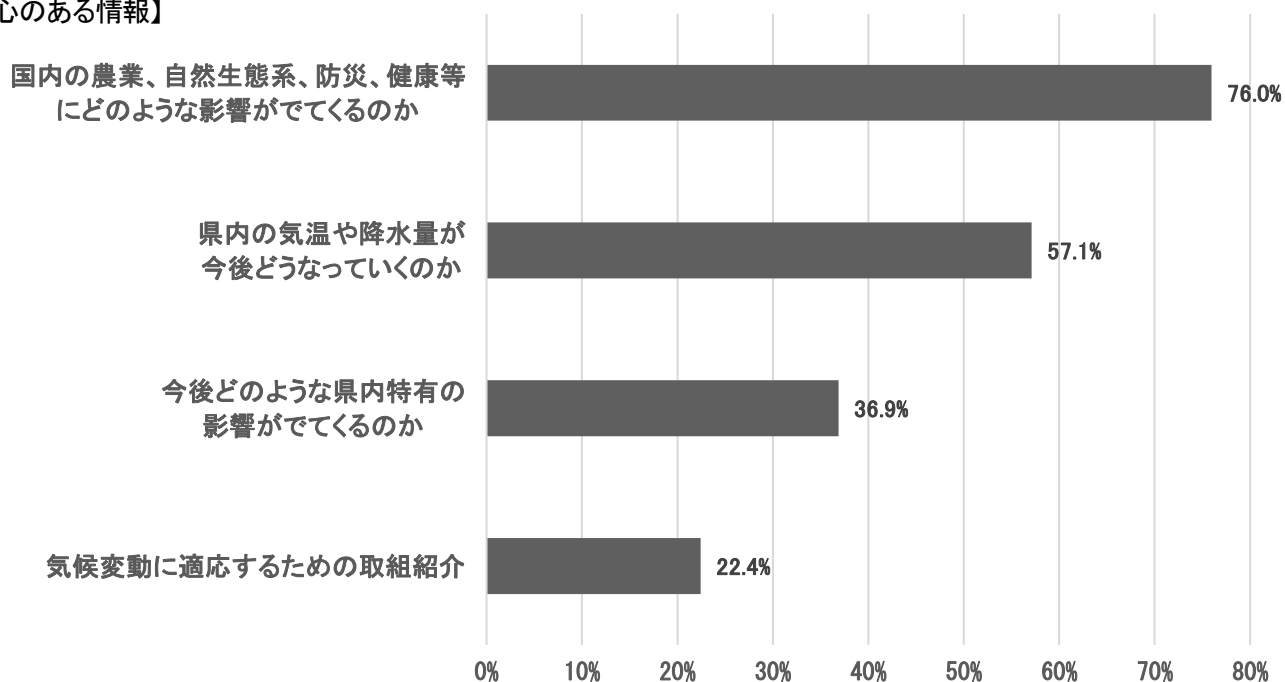
【取り組んでいる地球温暖化対策】



<地球温暖化の影響への適応について>

- 地球温暖化の進行による農業・自然・健康等への影響に対する関心が最も高い。
- ⇒ 地球温暖化の進行による影響について、県民への情報提供を行うとともに、引き続き、各分野において、影響に対する適応策に取り組む。

【関心のある情報】

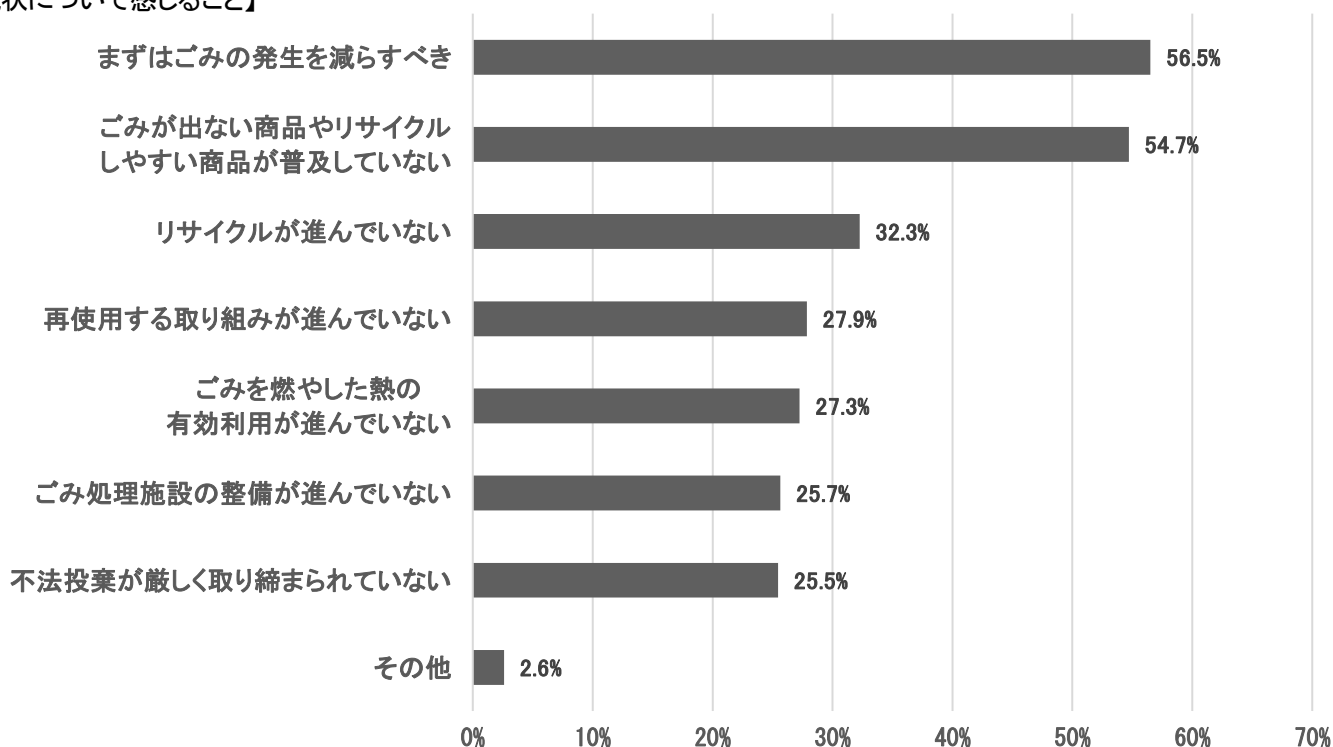


(6) 循環型社会の構築について

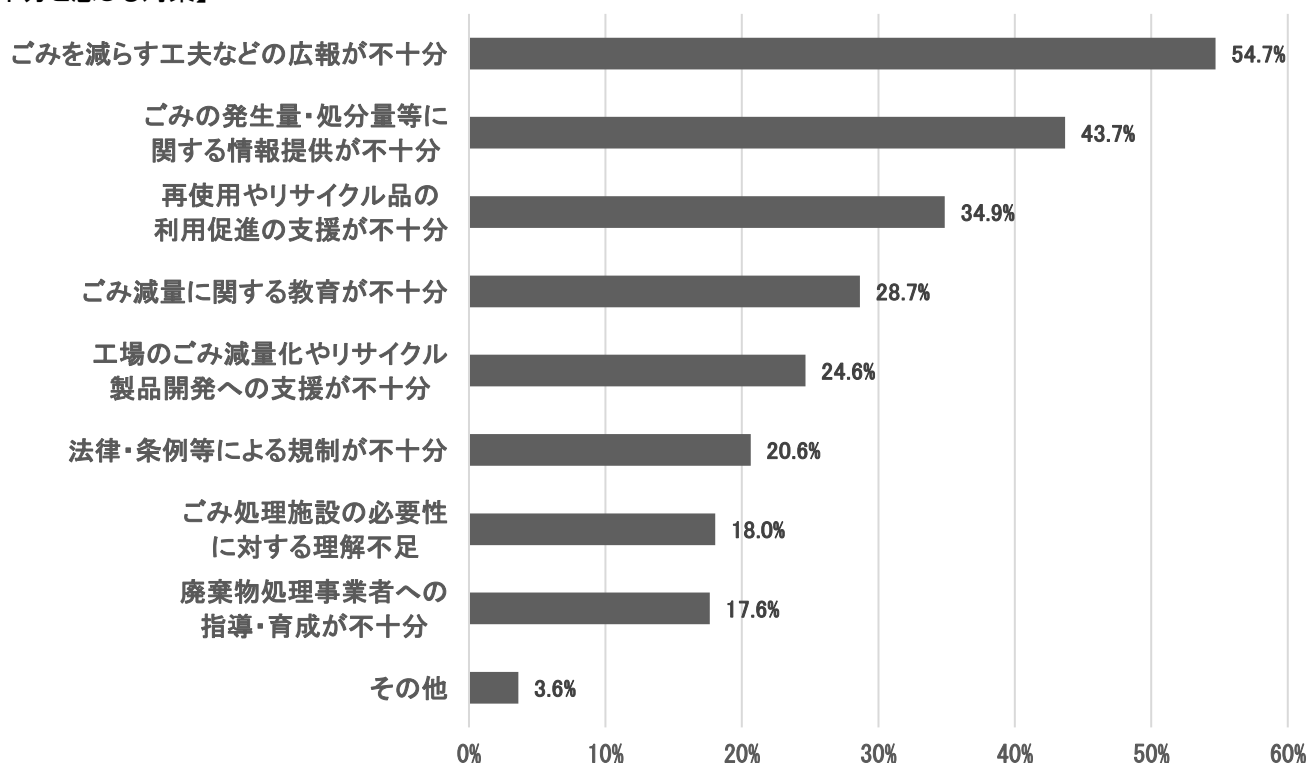
○ ごみの発生抑制に力を入れるべきであり、現状ではごみを減らす工夫などの情報提供が不十分との意見が多い。

⇒ ごみの削減につながる取組事例を掲げた「いしかわ版環境ISO」の普及により、廃棄物等のさらなる排出抑制を推進する。

【現状について感じること】



【不十分と感じる対策】

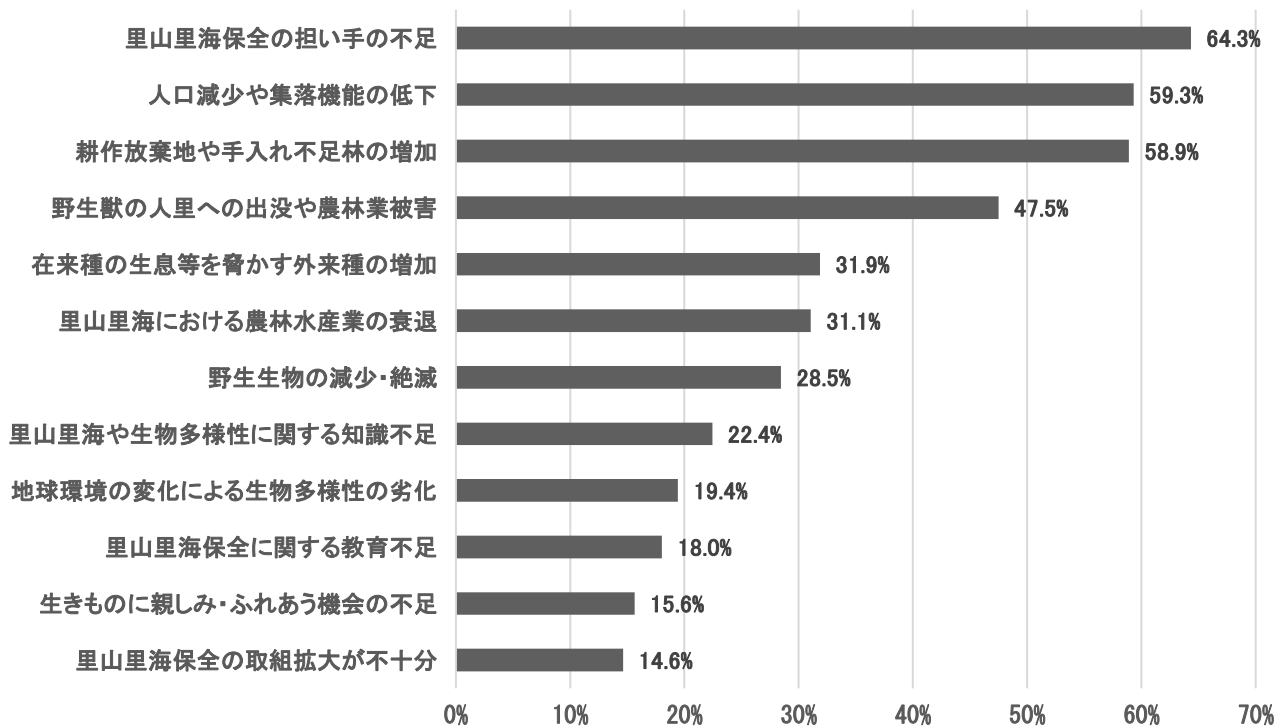


(7) 里山里海の利用保全について

○ 里山里海における課題として、担い手不足を挙げる意見が多く、課題解決のため、生業の創出が必要との意見が多い。

⇒ 「いしかわり山振興ファンド」による里山里海の地域資源を活用した生業の創出を通じて、里山里海の活性化を図る。

【現状の課題や問題点】



【解決のために必要と考えるもの】

